

# Jリーグにおける集客に関する基礎的研究

## — 満席率に着目して —

### A Fundamental Study on the Attraction of Spectators in the J. League

— Focusing on the stadium occupancy rate —

出口 順子\*

Junko DEGUCHI

キーワード：満席率、ホームスタジアム、Jリーグ

Key words : occupancy rate, home stadium, J-League

#### 要約

本研究の目的はJリーグにおけるホームスタジアムでの満席率を算出すること、満席率を従属変数として影響要因を検討するにあたっての課題を明らかにすることである。ホームスタジアムにおける満席率を算出したところ、J1とJ2では満席率に有意差がみられること、平均入場者数は多くはないが満席率の高いクラブ、逆に平均入場者数は多いが満席率の低いクラブが存在することが分かった。満席率を従属変数とし影響要因を分析する上での課題として、1)ホームスタジアムでの試合数の違いに注意すること、2)J1とJ2の満席率の差を考慮すべきこと、3)多くの入場者が見込まれた試合は分析対象外になっている場合があること、4)ホームスタジアム変更に伴う収容人数の変更が満席率にみせかけの影響を及ぼしているケースがあることの4点が考えられた。

#### Abstract

This study was intended to calculate the occupancy rates at the home stadiums of soccer clubs in the J. League and to identify challenges in investigating influencing factors using the occupancy rate as a dependent variable. The calculations of the occupancy rates at the home stadiums revealed that there were significant differences in the occupancy rates between J1 and J2 clubs, and that some clubs attracted fewer spectators per game on average but the occupancy rates at their home stadiums were relatively high while others attracted more spectators per game on average but the

---

\* 東海学園大学 スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科

occupancy rates at their home stadiums were relatively low. The following four points were identified as possible challenges in analyzing influencing factors using the occupancy rate as a dependent variable: 1) to pay heed to variations among clubs in the number of games held at the home stadium, 2) to take into account the differences in the occupancy rates between J1 and J2 clubs, 3) to note that games expected to attract many spectators may have been excluded from the analysis, and 4) to note that a change in the stadium capacity following a reassignment of the home stadium may cause an apparent effect on the occupancy rate.

## 1 はじめに

Jリーグにおいては2007年から2010年にかけて年間総入場者数1,100万人を達成することを目標とするイレブンミリオンプロジェクトが実施され、Jリーグディビジョン1（以下J1）で70%、Jリーグディビジョン2（以下J2）で50%の満席率という目標が掲げられた。また2007年から2008年に清水エスパルスにおいては「超満員作戦」と名付けられた、スタジアムを満席にすることに主眼を置いた取り組みがなされた。このように入場者数を増やすこと、スタジアムを満席にするものの重要性はJリーグにおいて認識されているといえる。また福田（2009）はNFL、ドイツ・ブンデスリーガのバイエルン・レバークーゼンの事例を挙げ、満員のスタジアムが醸し出す雰囲気はスポーツビジネスにおいては重要で、収入の源泉になることを示唆している<sup>1</sup>。満席であろうがなかろうが入場者数が多い方が短期的には収益があがるかもしれない。しかし満員のスタジアムに価値があり、それが長期的な収益につながっていくと考えられるのである。

入場者数への影響要因を明らかにする研究は観戦需要研究と呼ばれ、平田（2009）<sup>2</sup>、河合（2008）<sup>3</sup>、畔蒜（2012）<sup>4</sup>、鈴木（2012）<sup>5</sup>がJリーグへの適応を試みており、従属変数に「入場者数」を用いて分析が行われている。しかし入場者数を用いた場合、スタジアムの収容人数の違いによる影響を受ける。つまりスタジアムの収容人数が少ないスタジアムを使用しているクラブはどんなに満席にしてもスタジアムの収容人数が多いクラブには及ばない。入場者数だけをみた場合、空席があり集客に関して改善する余地があるにも関わらず成功しているようにみえてしまったり、逆に集客率が高く成功しているにも関わらず、入場者数が他のクラブに比して劣るため改善の余地があるようにみえてしまったりする。

以上より満員のスタジアムには付加価値がありプロスポーツビジネスにおいて収入源となる重要な要素であると考えられること、スタジアムの収容人数の違いを超えて分析できることから満席率は有用な変数であると考えられる。満席率を用いた研究には福田（2009）の研究があるが、用い

ているスタジアムの収容人数が実際とは異なるという点で問題があり、分析対象期間も2002年から2007年に留まっている。また全試合を対象としているが、Jリーグがホームタウン制を導入し、地域密着を戦略としていることを重視すればホームスタジアムでの試合のみで満席率を算出すべきなのではないか。以上を踏まえ本研究では、J2が新設された1999年から2012年の、ホームスタジアムで行われた試合を対象に満席率を算出すること、また満席率を従属変数とすることの課題を明らかにすることを目的とする。本研究は今後満席率を用いた観戦需要研究を行うための基礎となる研究である。

## 2 研究方法

### (1) 研究対象

J2が新設された1999年から2012年の14年間継続してJ1またはJ2に所属していた26クラブを調査対象とした。クラブ名は14年の間に変更になっているクラブもあることから2012年時点での名称を用いることとした。

### (2) 分析手法

ホームスタジアムでの満席率を算出するにあたり、以下の点が課題として考えられた。登録されたホームスタジアムが年によって異なり、また収容人数も年によって異なるクラブがあること。ホームゲームでありながらホームスタジアム開催でない試合が存在すること。ホームスタジアムでの開催率がクラブによって異なること。これらの課題を克服するため、①ホームスタジアムおよび収容人数の把握、②ホームゲームにおけるホームスタジアム使用状況の把握とホームスタジアム開催率の算出を、満席率算出の前段階として行うこととした。その上で③各クラブのホームスタジアムでの満席率を求める。

データはJリーグ公式記録集(1999~2013)<sup>6</sup>及びJリーグ公式ホームページ<sup>7</sup>に記載されているデータを用いた。

#### ①ホームスタジアム及び収容人数の把握

ホームスタジアムは2002年FIFAワールドカップ日韓共催に向けたスタジアムの新設等によって変更になったり、1クラブが2つのスタジアムをホームスタジアムとして登録したりしている場合もある。また名古屋のようにホームスタジアム以外の特定のスタジアムを平均で約3割使用しているのにもかかわらず、長年ホームスタジアムとして登録されていなかったというケースも存在する。ここではホームスタジアムをその年にホームスタジアムとして登録されていたスタジアムとする。ホームスタジアムの収容人数もその年によって異なる。スタジアムの改修によって変更になったり、座席レイアウトによって変更になったりしている。よってホームスタジアムの

満席率を算出するにあたり年毎のホームスタジアムの収容人数を調べ用いることとした。なおホームスタジアム名はネーミングライツ等により14年の間に変更になっているスタジアムもあったため、クラブ名と同様2012年時点での名称を用いることとした。

### ②ホームゲームにおけるホームスタジアム開催率

Jリーグのホームゲームはホームスタジアムで開催されることが多いが、県内の他スタジアムや県外で開催されることもある。Jリーグがホームタウン制を取り、地域に密着したスポーツクラブを標榜していること、「スポーツ・スタジアムは多くの人々に多くの点でトポフィリア（場所愛）の源泉となっている<sup>8)</sup>」ことから、継続的な集客やクラブ経営を考えた場合、ホームスタジアムでの入場者数を増やすことが重要だと考える。そこでホームゲームのうちホームスタジアムで開催された試合を抽出し、分析の対象とすることとした。クラブ毎にホームスタジアムでの試合開催数にばらつきが見られたため、ホームスタジアムでの試合数を数え、ホームゲーム数で除してホームスタジアム開催率を算出した。

### ③ホームスタジアムにおける満席率

ホームスタジアムでの満席率は入場者数をホームスタジアムの収容人数で除し算出した。

## 3 結果

### ①ホームスタジアム及び収容人数の把握

ホームスタジアムと収容人数の推移を表1に示す。26クラブ中、仙台、浦和、川崎F、湘南、新潟、広島、福岡、鳥栖の8クラブにおいては収容人数に変更はなく、残り18クラブで変更がみられた。また調査対象期間中に2つのスタジアムを同時にホームスタジアムに登録したことがあるクラブは札幌、浦和、千葉、横浜FM、新潟、名古屋、C大阪、大分の8クラブであった。37スタジアムの調査対象期間中における平均収容人数は29,351人であった。

### ②ホームゲームにおけるホームスタジアム開催率

ホームゲームにおけるホームスタジアムでの開催数とその開催率を表2に示す。1999年から2012年までの26クラブの平均開催率は88.8%であり、増加傾向にある。次にクラブ別にみると、最もスタジアム開催率が高かったのは湘南で99.5%、次いで福岡の99.1%となっている。逆に最もスタジアム開催率が低かったのは名古屋の71.4%で、次いで大宮の73.3%であった。詳細にみていくと、2009年の仙台は1月から6月にかけて改修工事が行われたためホームスタジアム開催率が低くなっている。鹿島は1999年から2000年にかけてFIFAワールドカップ2002に向けて改修工事を行ったため、ホームスタジアム開催率が低くなっている。浦和は2001年から2004年にかけてホームスタジアム登録ではない埼玉スタジアム2002の試合が多かったため、ホームスタジアム開催率が低くなっている。大宮においては2005年にJ1に昇格し、NACK5

表1 ホームスタジアムと収容人数の推移

クラブ名	ホームスタジアム名	収容人数												
		1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
札幌	札幌ドーム	42,300	42,831	42,831	42,831	42,831	42,831	41,580	41,580	41,484	41,484	41,484	41,484	41,484
	札幌厚別公園競技場	20,005	20,005	20,005	20,005	20,005	20,005	20,005	20,005	20,005	20,005	20,005	20,005	20,005
仙台	ユアテックスタジアム仙台	19,694	19,694	19,694	19,694	19,694	19,694	19,694	19,694	19,694	19,694	19,694	19,694	19,694
山形	NDソフトスタジアム山形	20,315	20,315	20,315	20,315	20,315	20,315	20,315	20,315	20,315	20,315	20,315	20,315	21,292
鹿島	県立カシマサッカースタジアム	15,870	15,810	41,800	38,862	38,767	39,026	39,026	39,026	39,026	39,026	39,026	39,026	40,728
浦和	埼玉スタジアム2002						63,700	63,700	63,700	63,700	63,700	63,700	63,700	63,700
	さいたま浦和駒場スタジアム	21,500	21,500	21,500	21,500	21,500	21,500	21,500	21,500	21,500	21,500	21,500	21,500	21,500
大宮	NACK5スタジアム大宮	12,500	12,500	12,500	12,500	12,500	12,500	12,500	15,500	15,300	15,300	15,300	15,300	15,300
千葉	市原臨海競技場	15,338	15,338	15,338	15,338	15,338	16,933	16,933	16,933	14,051	14,051	14,051	14,051	
	フクダ電子アリーナ						18,500	18,500	18,500	18,500	18,500	18,500	18,500	18,500
柏	日立柏サッカー場	15,900	15,900	15,900	15,900	15,900	15,900	15,900	15,900	15,900	15,900	15,900	15,900	15,349
F東京	味の素スタジアム		50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	49,970
	国立西が丘サッカー場	9,038												
東京V	等々力陸上競技場	25,000	25,000											
	味の素スタジアム			50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	49,970
川崎F	等々力陸上競技場	25,000	25,000	25,000	25,000	25,000	25,000	25,000	25,000	25,000	25,000	25,000	25,000	25,000
横浜FM	日産スタジアム	70,000	70,000	70,000	72,370	72,370	72,370	72,370	72,370	72,370	72,370	72,370	72,370	72,327
	ニッパツ三ツ沢球技場		15,046	15,046	15,046	15,046	15,046	15,046	15,046	15,046	15,046	15,046	15,454	15,454
湘南	Shonan BMW スタジアム平塚	18,500	18,500	18,500	18,500	18,500	18,500	18,500	18,500	18,500	18,500	18,500	18,500	18,500
甲府	山梨中銀スタジアム	13,000	13,000	13,000	13,000	13,000	13,000	17,000	17,000	17,000	17,000	17,000	17,000	17,000
新潟	東北電力ビッグスワンスタジアム						42,300	42,300	42,300	42,300	42,300	42,300	42,300	42,300
	新潟市陸上競技場	18,671	18,671	18,671	18,671	18,671	18,671	18,671	18,671	18,671	18,671	18,671	18,671	18,671
	アウトソーシングスタジアム日本平	20,339	20,339	20,339	20,339	20,339	20,339	20,339	20,339	20,339	20,339	20,339	20,299	20,299
清水	ヤマハスタジアム	17,400	17,400	17,400	17,400	16,839	16,893	16,893	16,893	16,893	16,893	16,820	16,295	16,287
磐田	ヤマハスタジアム	17,400	17,400	17,400	17,400	16,839	16,893	16,893	16,893	16,893	16,893	16,820	16,295	16,287
名古屋	名古屋市瑞穂公園陸上競技場	27,000	27,000	27,000	27,000	27,000	27,000	27,000	20,000	20,000	20,000	20,000	20,000	20,000
	豊田スタジアム													40,000
京都	京都市西京極総合運動公園陸上競技場兼球技場	20,412	20,668	20,668	20,668	20,389	20,389	20,242	20,242	20,242	20,242	20,242	20,242	20,588
G大阪	万博記念競技場	23,000	23,000	23,000	23,000	23,000	23,000	21,000	21,000	21,000	21,000	21,000	21,000	21,000
C大阪	大阪長居スタジアム	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	47,000	47,000	47,000	47,000	47,000
	キンチョウスタジアム													20,000
	ホームズスタジアム神戸					34,000	34,000	34,000	34,000	34,000	30,132	30,132	30,132	30,132
	神戸総合運動公園ユニバー記念競技場	60,000	60,000	60,000	60,000									
広島	広島ビッグアーチ	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000
福岡	レibelファイブスタジアム	22,563	22,563	22,563	22,563	22,563	22,563	22,563	22,563	22,563	22,563	22,563	22,563	22,563
鳥栖	ベストアメニティスタジアム	24,490	24,490	24,490	24,490	24,490	24,490	24,490	24,490	24,490	24,490	24,490	24,490	24,490
大分	大分銀行ドーム			43,000	43,000	43,000	43,000	40,000	40,000	40,000	40,000	40,000	40,000	40,000
	大分市営陸上競技場	16,000	16,000	16,000	16,000									

2004年千葉市原臨海競技場は6月より16,933人。

(Jリーグ公式記録集より筆者作成)

スタジアム大宮がJ1リーグの基準を満たさなかったため開催率が低くなっている。また2006年から2007年10月まではスタジアムの改修を行ったため、それぞれ0%、11.8%となっている。2000年のF東京は、味の素スタジアムをホームスタジアムとして登録していたが、同スタジアムが建設中だったため使用出来ず0%となっている。新潟は2001年から2003年にかけてホームスタジアム登録ではなかった東北電力ビッグスワンスタジアムでの試合が多く、ホームスタジアム開催率は低くなっている。同様に名古屋も2011年まで豊田スタジアムのホームスタジアム登録はなかったが豊田スタジアムでの試合開催が一定の割合であり、ホームスタジアム開催率が低くなっている。2002年のC大阪はFIFAワールドカップ2002の影響によりホームスタジアム開催率が低くなっている。以上のようにホームスタジアム開催率の低さの要因はスタジアム建設・改修と意図的なホームスタジアム以外のスタジアム利用に大別される。開催率が低かった大宮は前者の理由、名古屋は後者の理由といえる。

### ③ホームスタジアムにおける満席率

年間入場者数、試合数、平均入場者数、満席率の推移を表3に示す。年間入場者数はホームスタジアムで開催された試合における年間入場者数を指し、ホームスタジアムで開催された試合数がクラブによって異なること、またJ1とJ2では行われた試合数が異なることから単純に比較できないため、平均入場者数を算出した。つまり平均入場者数とはホームスタジアムで開催された試合における1試合あたりの入場者数である。1999年から2012年までにおける26クラブの年

表2 ホームスタジアム試合数と開催率の推移

クラブ名	1999		2000		2001		2002		2003		2004		2005		2006		2007		2008		2009		2010		2011		2012		平均		
	試合数	開催率	試合数	開催率	試合数	開催率	試合数	開催率	試合数	開催率	試合数	開催率																			
札幌	15	83.3%	17	85.0%	12	80.0%	12	80.0%	19	86.4%	20	90.9%	20	90.9%	22	91.7%	20	83.3%	17	100.0%	24	92.3%	16	88.9%	17	89.5%	17	100.0%	17	100.0%	88.7%
仙台	18	100.0%	20	100.0%	22	100.0%	13	86.7%	12	80.0%	21	95.5%	22	100.0%	24	100.0%	24	100.0%	20	95.2%	14	53.8%	14	82.4%	17	100.0%	17	100.0%	17	100.0%	92.4%
山形	16	88.9%	18	90.0%	22	100.0%	22	100.0%	22	100.0%	21	95.5%	22	95.5%	24	100.0%	24	100.0%	20	100.0%	17	100.0%	17	100.0%	17	100.0%	17	100.0%	21	100.0%	97.2%
鹿島	7	46.7%	8	53.3%	11	73.3%	15	100.0%	15	100.0%	15	100.0%	15	100.0%	17	100.0%	17	100.0%	17	100.0%	17	100.0%	17	100.0%	16	94.1%	17	100.0%	17	100.0%	90.5%
浦和	12	80.0%	20	100.0%	11	73.3%	9	80.0%	9	80.0%	6	40.0%	17	100.0%	17	100.0%	17	100.0%	17	100.0%	17	100.0%	17	100.0%	17	100.0%	17	100.0%	17	100.0%	86.2%
大宮	16	88.9%	18	90.0%	21	95.5%	19	86.4%	20	90.9%	19	86.4%	5	29.4%	0	0.0%	2	11.8%	16	94.1%	13	76.5%	15	88.2%	16	94.1%	16	94.1%	16	94.1%	73.3%
千葉	14	93.3%	12	80.0%	12	80.0%	12	80.0%	12	80.0%	13	86.7%	16	94.1%	17	100.0%	17	100.0%	17	100.0%	17	100.0%	17	100.0%	18	100.0%	19	100.0%	21	100.0%	92.4%
F東京	10	66.7%	10	66.7%	11	73.3%	11	73.3%	11	73.3%	13	86.7%	13	86.7%	15	88.2%	14	82.4%	16	94.1%	15	88.2%	15	88.2%	15	88.2%	15	88.2%	15	88.2%	78.3%
東京V	12	80.0%	0	0.0%	14	93.3%	12	80.0%	14	93.3%	13	86.7%	13	86.7%	15	88.2%	14	82.4%	16	94.1%	15	88.2%	18	99.2%	12	66.7%	14	73.7%	16	76.2%	75.6%
川崎F	16	88.9%	15	100.0%	18	81.8%	22	100.0%	22	100.0%	22	100.0%	22	100.0%	24	100.0%	24	100.0%	17	100.0%	17	100.0%	17	100.0%	17	100.0%	17	100.0%	17	100.0%	97.9%
横浜FM	14	93.3%	13	86.7%	14	93.3%	10	66.7%	14	93.3%	13	86.7%	16	94.1%	17	100.0%	17	100.0%	17	100.0%	16	94.1%	17	100.0%	17	100.0%	17	100.0%	17	100.0%	93.4%
湘南	14	93.3%	20	100.0%	22	100.0%	22	100.0%	22	100.0%	22	100.0%	22	100.0%	22	100.0%	24	100.0%	24	100.0%	24	100.0%	26	100.0%	17	100.0%	19	100.0%	21	100.0%	99.5%
甲府	14	77.8%	17	85.0%	22	100.0%	22	100.0%	21	95.5%	21	95.5%	21	95.5%	16	94.1%	16	94.1%	21	100.0%	25	100.0%	18	100.0%	16	94.1%	21	100.0%	21	100.0%	95.1%
新潟	18	100.0%	20	100.0%	8	36.4%	11	50.0%	7	31.8%	14	93.3%	17	100.0%	17	100.0%	17	100.0%	17	100.0%	17	100.0%	17	100.0%	17	100.0%	17	100.0%	17	100.0%	86.5%
清水	15	100.0%	14	93.3%	13	86.7%	14	93.3%	8	53.3%	13	86.7%	16	94.1%	14	82.4%	17	100.0%	17	100.0%	17	100.0%	16	94.1%	16	94.1%	16	94.1%	16	94.1%	90.4%
磐田	15	100.0%	15	100.0%	13	86.7%	13	86.7%	12	80.0%	12	80.0%	12	80.0%	13	76.5%	12	70.6%	13	76.5%	12	70.6%	14	82.4%	15	88.2%	15	88.2%	15	88.2%	83.9%
名古屋	14	93.3%	12	80.0%	12	80.0%	10	66.7%	10	66.7%	9	60.0%	12	70.6%	12	70.6%	12	70.6%	11	64.7%	13	76.5%	10	56.8%	9	52.9%	17	100.0%	17	100.0%	71.4%
京都	13	86.7%	13	86.7%	21	95.5%	13	86.7%	13	86.7%	20	90.9%	21	95.5%	17	100.0%	21	87.5%	16	94.1%	16	94.1%	16	94.1%	17	100.0%	19	100.0%	20	95.2%	92.8%
G大阪	15	100.0%	15	100.0%	14	93.3%	14	93.3%	14	93.3%	14	93.3%	16	94.1%	16	94.1%	16	94.1%	16	94.1%	16	94.1%	16	94.1%	16	94.1%	17	100.0%	17	100.0%	96.0%
C大阪	13	86.7%	14	93.3%	15	100.0%	10	45.5%	15	100.0%	15	100.0%	17	100.0%	12	70.6%	8	33.3%	21	100.0%	25	100.0%	17	100.0%	17	100.0%	17	100.0%	17	100.0%	87.0%
神戸	15	100.0%	15	100.0%	14	93.3%	13	86.7%	15	100.0%	12	80.0%	10	58.8%	21	87.5%	14	82.4%	15	88.2%	16	94.1%	16	94.1%	16	94.1%	16	94.1%	16	94.1%	88.6%
広島	9	60.0%	13	86.7%	8	53.3%	12	80.0%	11	50.0%	15	100.0%	15	100.0%	17	100.0%	17	100.0%	17	100.0%	17	100.0%	23	95.9%	21	100.0%	18	100.0%	17	100.0%	99.1%
福岡	15	100.0%	15	100.0%	15	100.0%	21	95.5%	22	100.0%	21	95.5%	22	100.0%	17	100.0%	17	100.0%	23	95.9%	21	100.0%	25	100.0%	18	100.0%	17	100.0%	21	100.0%	99.1%
鳥栖	16	88.9%	18	90.0%	19	86.4%	20	90.9%	21	95.5%	21	95.5%	21	95.5%	22	91.7%	21	87.5%	20	94.1%	23	88.5%	23	88.5%	17	94.4%	19	100.0%	14	82.4%	91.6%
大分	16	88.9%	16	80.0%	20	90.9%	14	93.3%	14	93.3%	14	93.3%	16	94.1%	16	94.1%	16	94.1%	16	94.1%	16	94.1%	17	100.0%	17	94.4%	19	100.0%	21	100.0%	93.4%
平均	13.9	86.2%	14.5	85.1%	15.2	85.9%	14.8	83.3%	14.8	83.5%	15.7	87.9%	16.6	89.0%	16.7	87.0%	16.6	85.9%	17.3	94.7%	17.8	91.3%	16.2	93.6%	16.5	93.5%	17.6	96.4%	88.8%		
J1試合数	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	
J2試合数	18	20	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	24	24	24	24	21	21	25または26	18	19	19	19	19	19	19	19	19	

(Jリーグ公式記録集より筆者作成 大文字: J1 標準: J2)

間入場者数の平均は210,816人、平均入場者数の平均は13,518人、満席率の平均は48.7%であった。また対象期間中の満席率の平均が最も高かったのは浦和の76.4%で、次いで仙台74.4%、磐田73.8%であった。逆に最も低かったのは東京Vの22.6%で、次いで広島25.6%、鳥栖26.0%であった。満席率上位3クラブはスタジアムの4分の3が埋まっているのに対し、下位3クラブは4分の3が空いていることになる。いずれにしてもJリーグのクラブ経営においては継続してスタジアムに足を運んでもらう努力をしていかなければいけない段階にあることが明らかになった。

J1のクラブ数は1999年から2004年までが16クラブ、2005年から2012年までが18クラブである。またJ2のクラブ数は1999年が10クラブ、2000年が11クラブ、2001年から2005年までが12クラブ、2006年から2007年が13クラブ、2008年が15クラブ、2009年が18クラブ、2010年が19クラブ、2011年が20クラブ、2012年が22クラブである。14シーズン通してJ1であったクラブは鹿島、横浜FM、清水、磐田、名古屋、G大阪の6クラブで、14シーズンすべてJ2であったクラブはなかった。J1とJ2を経験しているクラブの満席率をみると、20クラブ中18クラブにおいてJ1での満席率の平均の方がJ2の満席率の平均より高く、J2の満席率の平均の方が高かったクラブは浦和と千葉であった。ただし浦和のJ2は1シーズン（2000年）のみのデータである。クラブがJ1だった場合とJ2だった場合で差があるかどうかを検討するために、20クラブの満席率の平均について $t$ 検定を行った。その結果、J1の満席率の平均はJ2の満席率の平均に比べて有意に高い( $t(19)=7.30, p<.001$ )ということが明らかとなった。これはJ1の場合、J2に比べてより面白い試合が期待できることから入場者数が増える、アウェイクラブのサポーターが多く来場することにより入場者数が増える等がその要因として考えられる。

対象期間における満席率の平均、1試合あたりの入場者数の平均、1試合あたりの入場者数の順位、年間入場者数の平均、年間入場者数の順位を表4に示す。満席率の平均が高いクラブ順に並べてある。また1試合あたりの入場者数の平均と満席率の平均の散布図を図1に示す。浦和が満席率の平均、年間入場者数の平均において1位であり、収容人数の多いスタジアムに多くの観戦者が訪れているといえる。仙台、磐田、清水は1試合あたりの入場者数は7位、14位、8位と多い方ではないが、満席率の平均では2位、3位、4位となっており、スタジアムを多くの観戦者で埋めるという観点からは26クラブの中で成功しているクラブだといえる。近隣に収容人数の多いスタジアムが存在し、試合でも使用されていることから、戦略的に収容人数の少ないスタジアムを使用していると推察できる。F東京、横浜FMは1試合あたりの入場者数の平均が3位、4位と多いが、満席率は14位、19位となっており、収容人数の多いスタジアムをホームスタジアムにしていることがその要因として考えられる。収容人数が多い分入場者数を増やす余地はあるが、仮に入場者数が現状のままだとするとスタジアムの半分以上が空席のままとなってし

表3 入場者数と満席率の推移

フナ子名	1999			2000			2001			2002			2003			2004			2005													
	年間入場者数	入場者数	満席率	年間入場者数	入場者数	満席率	年間入場者数	入場者数	満席率	年間入場者数	入場者数	満席率	年間入場者数	入場者数	満席率	年間入場者数	入場者数	満席率	年間入場者数	入場者数	満席率											
札幌	182,643	12	72.60	60.9%	235,626	17	13,743	68.1%	341,622	12	24,469	71.3%	255,531	12	21,294	61.3%	226,633	19	11,663	38.6%	196,902	20	9,838	34.2%	254,226	20	11,711	35.0%				
仙台	134,282	18	14,676	37.9%	177,699	20	8,885	48.7%	390,243	22	14,011	67.1%	255,531	12	21,294	61.3%	226,633	19	11,663	38.6%	196,902	20	9,838	34.2%	254,226	20	11,711	35.0%				
山形	48,274	6	3,055	15.0%	64,887	8	3,605	17.7%	82,039	20	4,402	21.0%	82,039	11	2,036	52.8%	220,384	15	21,590	56.1%	96,142	15	19,110	95.7%	380,544	22	16,130	81.9%	390,544	22	15,934	80.9%
山梨	90,865	7	12,665	18.6%	111,401	8	13,925	17.5%	120,394	11	20,036	52.8%	220,384	15	21,590	56.1%	96,142	15	21,590	56.1%	96,142	15	21,590	56.1%	96,142	15	21,590	56.1%	96,142	15	21,590	56.1%
福島	215,774	12	17,801	83.1%	338,557	20	16,524	78.7%	205,464	11	3,679	86.1%	164,742	9	18,305	85.3%	173,143	8	21,643	88.3%	173,143	8	21,643	88.3%	173,143	8	21,643	88.3%	173,143	8	21,643	88.3%
栃木	46,815	6	2,801	22.4%	69,379	18	3,854	30.8%	81,890	21	3,000	31.2%	83,733	19	4,407	35.3%	76,230	19	5,589	44.7%	39,598	5	5,589	44.7%	39,598	5	5,589	44.7%	39,598	5	5,589	44.7%
群馬	71,090	14	5,078	34.7%	62,847	12	3,217	34.1%	84,433	12	7,036	45.8%	104,977	12	5,863	36.3%	86,174	12	7,181	46.8%	95,700	13	7,362	45.2%	145,880	16	9,118	51.4%	111,516	11	10,288	64.7%
茨城	83,288	10	8,329	52.4%	91,209	10	9,121	57.7%	100,612	10	10,661	65.5%	104,977	12	5,863	36.3%	86,174	12	7,181	46.8%	95,700	13	7,362	45.2%	145,880	16	9,118	51.4%	111,516	11	10,288	64.7%
栃木	33,332	10	3,333	33.3%	39,295	10	3,929	39.2%	44,368	10	4,437	44.3%	50,331	10	5,033	50.3%	56,294	10	5,629	56.2%	62,257	10	6,227	62.2%	68,220	10	6,822	68.2%	74,183	10	7,418	74.1%
群馬	88,992	12	7,408	29.3%	61,965	10	6,197	25.3%	290,964	15	19,396	68.4%	186,765	12	23,708	47.4%	353,372	14	25,391	31.0%	186,014	12	15,501	20.0%	208,693	14	14,900	20.0%				
千葉県	87,034	16	5,464	30.6%	113,249	15	7,550	29.4%	76,230	18	4,238	17.0%	115,631	12	5,247	25.6%	156,420	22	7,110	29.0%	201,264	22	9,148	36.6%	221,183	17	13,658	54.6%				
東京都	293,665	14	20,976	30.6%	198,254	13	14,520	45.9%	288,739	14	20,624	29.5%	209,464	10	20,945	46.9%	352,830	14	25,102	54.8%	336,925	15	25,148	54.1%	417,744	16	26,109	40.8%				
新潟	21,406	14	4,521	21.8%	34,160	17	2,009	15.5%	68,850	22	3,130	24.1%	108,028	22	4,531	24.6%	194,021	22	4,731	25.6%	102,028	22	4,691	25.4%	126,416	22	5,706	31.1%				
長野	193,267	18	12,844	63.0%	188,097	14	12,671	63.0%	180,262	13	13,666	67.6%	204,680	14	14,620	71.9%	190,365	8	12,145	62.5%	145,358	13	11,181	54.9%	195,054	16	12,191	59.9%				
新潟	184,090	15	12,773	70.4%	178,007	15	12,534	72.0%	177,990	13	13,662	77.6%	188,311	14	14,485	83.5%	165,664	12	13,789	81.9%	166,572	13	12,813	76.7%	166,572	13	12,813	76.7%				
山梨	203,111	14	14,808	53.7%	184,232	12	15,353	56.5%	192,472	12	16,031	56.3%	188,287	10	11,829	43.8%	137,419	10	13,742	50.9%	105,922	9	11,769	43.2%	140,091	12	11,674	43.2%				
東京都	112,823	13	8,679	31.4%	85,159	13	6,551	31.4%	90,029	21	3,811	18.4%	140,074	13	10,775	52.3%	145,214	13	11,170	55.5%	105,922	9	11,769	43.2%	140,091	12	11,674	43.2%				
千葉県	119,934	15	7,996	34.7%	146,917	15	9,794	42.3%	168,110	14	12,008	50.9%	178,253	14	12,732	56.1%	145,548	14	10,396	47.6%	174,470	14	12,176	55.2%	252,287	16	15,768	68.9%				
東京都	133,696	13	10,284	20.5%	195,081	14	13,934	27.9%	177,857	15	11,857	23.8%	108,856	10	10,886	21.8%	207,813	15	13,256	33.0%	193,588	12	16,409	47.6%	174,200	17	17,648	35.3%				
千葉県	115,349	9	7,081	13.9%	112,676	15	7,512	12.8%	177,268	8	12,462	20.6%	143,875	13	11,067	18.5%	146,325	15	11,896	24.0%	222,005	15	14,800	39.6%	212,960	17	15,420	51.2%				
神奈川県	97,122	9	10,825	22.8%	131,022	13	9,309	18.6%	99,864	8	12,462	20.6%	143,875	13	11,067	18.5%	146,325	15	11,896	24.0%	222,005	15	14,800	39.6%	212,960	17	15,420	51.2%				
東京都	172,807	15	11,467	51.8%	204,174	15	13,612	61.3%	207,333	15	13,822	61.6%	135,934	12	11,328	23.8%	131,959	11	11,996	24.0%	222,005	15	14,800	39.6%	212,960	17	15,420	51.2%				
東京都	50,647	6	3,505	14.3%	68,662	18	3,859	15.8%	86,717	19	3,617	14.9%	81,765	20	4,088	16.7%	68,178	21	3,247	13.3%	76,365	21	3,665	15.0%	160,094	21	7,909	32.3%				
大分	6,102	25.6%	8,625	16	5,827	53.9%	41,857	20	7,073	27.9%	262,854	20	15,422	42.3%	309,166	14	22,083	51.8%	319,015	14	22,083	51.8%	319,015	14	22,083	51.8%	319,015	14	22,083	51.8%		
平均	115,976	13.9	8,591	32.9%	121,325	15.1	9,033	40.8%	164,990	15.2	11,818	42.7%	160,082	14.8	11,997	45.9%	199,339	14.8	12,559	48.3%	198,477	15.7	13,689	47.9%	252,025	16.6	15,470	51.6%				

フナ子名	2006			2007			2008			2009			2010			2011			2012			平均										
	年間入場者数	入場者数	満席率	年間入場者数	入場者数	満席率	年間入場者数	入場者数	満席率	年間入場者数	入場者数	満席率	年間入場者数	入場者数	満席率	年間入場者数	入場者数	満席率	年間入場者数	入場者数	満席率	年間入場者数	入場者数	満席率								
札幌	239,883	22	10,900	35.6%	370,470	20	13,524	41.8%	247,305	17	14,547	46.4%	254,199	24	10,992	35.4%	179,105	16	11,194	34.3%	185,522	17	10,913	37.2%	284,141	17	12,608	37.4%	231,899	17.7	13,755	46.8%
仙台	346,868	24	14,453	73.4%	325,632	24	14,685	74.6%	271,934	20	13,997	69.6%	198,291	14	14,164	71.9%	228,077	14	15,777	80.1%	266,144	17	15,656	79.5%	282,200	17	16,600	84.4%	266,016	18.4	14,674	74.4%
山形	122,042	24	5,085	25.0%	101,836	24	4,243	20.9%	131,725	21	6,273	30.9%	204,923	17	12,056	59.3%	199,069	17	11,710	57.6%	158,527	17	9,325	45.9%	154,459	21	7,355	34.9%	120,024	20.1	6,189	30.8%
山梨	262,345	17	15,433	39.5%	276,058	17	16,239	41.6%	335,140	17	19,714	50.7%	367,486	17	21,617	55.4%	358,430	17	20,966	62.7%	258,897	16	16,185	41.3%	261,484	17	15,881	37.8%	288,741	14.7	17,956	53.6%
福島	774,749	17	45,573	77.4%	793,347	17	46,667	79.4%	809,353	17	47,609	77.7%	751,565	17	44,210	72.8%	678,994	17	39,941	62.7%	576,677	17	33,910	53.2%	622,772	17	36,634	57.5%	492,288	14.4	31,937	76.4%
群馬	670,505	2	34,853	74.3%	151,965	16	9,498	62.1%	135,664	13	10,436	68.2%	150,862	15	10,886	74.0%	267,171	16	16,698	62.7%	247,900	16	15,443	76.1%	144,617	14,617	14,617	72.9%	211,067	14.6	12,982	70.7%
千葉県	237,680	21	8,120	51.1%	134,659	12	10,655	66.4%	146,035	15	9,887	62.2%	144,583	15	9,637	66.6%	150,766	18	11,689	62.3%	143,911	19	9,680	52.3%	194,993	21	9,281	50.2%	154,553	15.5	8,988	50.6%
東京都	352,990	14	25,214	80.4%	405,966	16	25,753	50.7%	391,044	15	26,070	27.1%	383,589	15	25,571	51.3%	379,857	15	25,524	50.6%	203,935	14	18,828	37.1%	381,430	16	23,839	47.7%	332,896	14.1	23,139	48.6%
東京都	67,885	11	6,170	12.1%	117,738	15	7,859	15.7%	159,071	14	13,934	27.9%	191,025	18	5,629	11.3%	379,857	15	25,524	50.6%	203,935	14	18,828	37.1%	381,430	16	23,839	47.7%	332,896	14.1	23,139	48.6%
千葉県	243,780	17	14,540	57.4%	294,751	17	17,338	69.4%	298,597	17	17,566	73.9%	330,394	17	18,847	61.5%	315,580	17	18,562	74.2%	294,716	17	17,340	64.0%	390,719	17	17,807	71.2%	238,659	17.1	12,444	50.1%
東京都	402,270	17	23,663	40.1%	408,656	17	24,039	40.9%	381,497	16	23,844	44.0%	374,975	17	22,857	46.1%	356,624	17	25,684	46.8%	357,647	17	21,038	36.8%	397,078	17	22,846	40.4%	345,668	15.1	22,680	39.9%
山梨	138,766	24	5,365	29.0%	112,254	24	4,677	25.3%	123,865	21	5,994	33.2%	188,614	26	7,273	39.1%	188,614	21	11,095	60.0%	131,918	19	6,943	37.0%	143,887	21	6,852	37.0%	133,893	21.1	5,981	32.2%
山梨	193,030	16	12,064	31.4%	196,720	16	12,295	32.3%	217,428	21	10,354	60.9%	276,663	21	10,959	63.1%	232,309	18	12,406	61.3%	184,219	16	11,514	67.7%	218,339	21	10,607	61.2%	152,357	19.4	7,978	

まう。横浜 FM はホームスタジアムに日産スタジアムとニッパツ三ツ沢球技場の 2 つを登録しており、ニッパツ三ツ沢球技場の割合を増やすことで満席率を高めることができると考える。1 試合あたりの入場者数の平均は少ないが満席率の平均が高いクラブが存在すること、逆に 1 試合あたりの入場者数の平均は多いが満席率の平均が少ないクラブが存在するという J クラブの特徴は先行研究（福田、2009）と分析の仕方は異なるが同様の結果であった。

表 4 満席率平均と 1 試合あたりの入場者数順位

	満席率	1試合あたりの入場者数	1試合あたりの入場者数順位	年間入場者数	年間入場者数順位
浦和	76.4%	31,937	1	492,288	1
仙台	74.4%	14,674	7	266,016	6
磐田	73.8%	12,508	14	167,830	16
清水	70.7%	14,282	8	211,067	11
新潟	65.4%	24,420	2	391,775	2
G大阪	64.8%	14,051	9	220,165	9
柏	60.9%	9,625	19	126,375	22
名古屋	55.7%	13,542	11	158,006	17
千葉	54.3%	9,563	20	154,553	18
鹿島	53.6%	17,956	5	268,741	5
大宮	50.6%	8,988	21	101,969	26
甲府	50.2%	7,878	23	152,357	19
川崎F	50.1%	12,444	15	218,059	10
F東京	48.6%	23,139	3	332,896	4
札幌	46.8%	13,755	10	231,899	8
福岡	44.1%	9,903	18	187,401	14
京都	43.0%	8,774	22	146,224	20
大分	40.3%	14,739	6	242,708	7
横浜FM	39.9%	22,680	4	345,668	3
神戸	34.1%	12,176	16	174,852	15
湘南	32.2%	5,961	26	123,893	23
C大阪	31.0%	13,216	12	204,050	12
山形	30.8%	6,189	24	120,924	24
鳥栖	26.0%	6,014	25	114,903	25
広島	25.6%	12,737	13	190,472	13
東京V	22.6%	10,329	17	139,628	21
平均	48.7%	13,518		210,816	

(Jリーグ公式記録集より筆者作成)

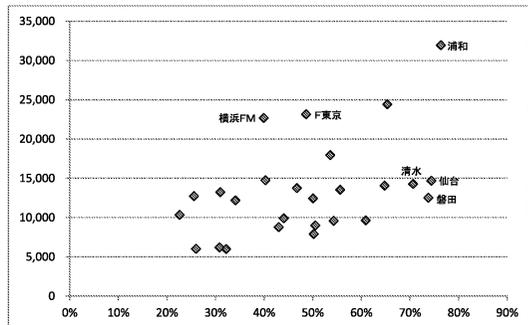


図 1 入場者数平均と満席率平均の散布図 (Jリーグ公式記録集より筆者作成)

#### 4 考察

ホームスタジアムでの満席率算出の過程より満席率をデータとして扱う際の注意点が以下のよう示唆された。

第 1 にホームスタジアムでの試合数はクラブにより開きがあることが明らかとなった。近年ではホームスタジアムでの開催率が上がってきているものの、過去には施設建設・改修中でホームスタジアムに登録されていたスタジアムがまったく使えなかったクラブもあったり、また名古屋や東京 V のように一定の割合でホームスタジアム以外のスタジアムを使用していたクラブもあ

たりしたため、今回の満席率を使用する際には注意が必要である。

第2にJ1とJ2における満席率の差が挙げられる。J1の満席率はJ2の満席率に比べて有意に高かったことからそれぞれのクラブが年度ごとにどちらのディビジョンに属していたかを踏まえておく必要がある。J1、J2というカテゴリーは満席率の影響要因とも考えられるが、前述のイレブンミリオンプロジェクトでもJ1とJ2の目標が異なっていること、J1からJ2に降格した際ホームスタジアムを収容人数に配慮して変更したクラブはなかったことから注意すべき事柄だと考える。

第3に収容人数を超える入場者数が見込まれる場合には試合会場がホームスタジアム以外の収容人数が大きいスタジアムに変更されることがあり、その場合には分析の対象外の試合となっていることに注意が必要である。例えば静岡ダービーである清水対磐田の試合ではエコパスタジアムが使用されたり、対戦相手が浦和の場合に近隣のより収容人数の多いスタジアムが使用されたりしていた。Jリーグのクラブにとってもこのことはホームタウンやホームスタジアムに対する意識に関わってくることであり、慎重に考えられるべき事柄ではないだろうか。

第4に1999年から2012年の間にホームスタジアムを変更し、収容人数が変更になったクラブが存在する。満席率はクラブ間の収容人数の違いを超えて分析できるというメリットがあるが、同じクラブ内で収容人数が減った場合、入場者数が前年とそれほど変わらなくても満席率は大きく上昇することになる。例えば神戸は2003年に収容人数60,000人の神戸総合運動公園ユニバー記念競技場から収容人数34,000人のホームズスタジアム神戸にホームスタジアムを変更している。2002年の1試合あたりの平均入場者数は11,067人であり、2003年の1試合あたりの平均入場者数は11,256人であったが、平均満席率は2002年が18.5%、2003年が33.0%である。収容人数が減ったことが要因にも関わらず、一見入場者数が増えたようにみえるので注意が必要である。しかし大分のように収容人数が増え、入場者数も増え、結果満席率が上昇しているクラブもあるのでこのようなクラブのデータを扱う際には個別にみる必要がある。

## 5 まとめ

本研究では満席率を用いた観戦需要研究を行うための基礎とすべく、Jリーグにおけるホームスタジアムでの試合の満席率を算出すること、また満席率を従属変数として影響要因を検討するにあたっての課題を明らかにすることを目的とした。ホームスタジアム及び収容人数の把握、ホームゲームにおけるホームスタジアム開催率の算出を行った上で、ホームスタジアムにおける満席率を算出した。分析の結果J1とJ2では満席率に有意差がみられること、1試合あたりの入場者数の平均は少ないが満席率の平均が高いクラブ、逆に1試合あたりの入場者数の平均は多いが満席率の平均の低いクラブの存在が明らかになった。これらの結果を踏まえ、満席率をデータとし

て用いる際の課題を考察した。第1にホームスタジアムでの試合数の違いに注意すること。第2にJ1とJ2の満席率の差を考慮すべきこと。第3に多くの入場者が見込まれる試合は予め試合会場が収容人数の多い会場に変更になっており、今回の分析の対象となっていないこと。第4に1999年から2012年の間にホームスタジアム変更に伴う収容人数の変更が満席率にみせかけの影響を及ぼしているケースがあること。

今後は本研究を踏まえ、満席率に影響を及ぼす要因について明らかにしていきたい。

## 注

- 1 福田拓哉、2009. Jリーグイレブンミリオンプロジェクト達成に向けた課題－スタジアムの集客率に着目した現状分析－。新潟経営大学紀要。新潟経営大学、pp131-148
- 2 平田竹男、ステファン・シマンスキー、2009. 日韓 W 杯が Jリーグの観客数に与えた影響に関する研究。スポーツ産業学研究 19(1)。日本スポーツ産業学会、pp41-54
- 3 河合慎祐、平田竹男、2010. Jリーグの観客数に影響を与える要因に関する研究。スポーツ産業学研究 18(2)。日本スポーツ産業学会、pp11-19
- 4 畔蒜洋平、能智大介、平田竹男、2012. Jリーグにおけるアウェイクラブが観客動員数に与える影響に関する研究。スポーツ産業学研究 22(1)。日本スポーツ産業学会、pp97-100
- 5 鈴木直樹、平田竹男、2012. Jリーグクラブ所在地域へのプロ野球チーム新規フランチャイズが Jリーグクラブの観客数に与えた影響。スポーツ産業学研究 22(2)。日本スポーツ産業学会、pp305-310
- 6 Jリーグイヤーブック。公益社団法人日本プロサッカーリーグ
- 7 Jリーグ公式ホームページ、<http://www.j-league.or.jp/>
- 8 橋本純一、2010. スポーツ観戦空間：そのパースペクティブ及び現在と未来。橋本純一編、スポーツ観戦学。世界思想社、p11